

UR都市機構平成29年版 保全工事共通仕様

UR都市機構 田島ルーフィング対応製品 ガイドブック

2節	屋根露出防水部分修繕工事	P3
3節	屋根外断熱等部分修繕工事	P4
4節	屋根外断熱露出防水工事	P6
5節	脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）	P9
6節	脱気絶縁複合防水工事（非歩行用）	P18
7節	バルコニー等床防水工事	P19
8節	屋上架台・庇等防水工事	P22
9節	トレンチピット等防水工事	P23
10節	階段室床防水工事	P24
11節	勾配屋根改修工事	P25
	使用材料一覧	P26

2節 屋根露出防水等部分修繕工

保全工事共通仕様書 2. 2. 2 アスファルト防水常温工法（P型）

アスファルト防水層の部分修繕に適用する。

材料・工法・施工は「仕様登録集」による

2. 2. 1表 アスファルト防水常温工法（P型）の工程					（1）絶縁帯がある場合	
工程	品名	使用量/㎡	かぶせ方式	撤去方式	材 料	使用量/㎡
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg	—	○		
2	アスファルト活性剤 又はポリマーセメント系下地調整材	1.2kg (1.0kg)	○	—	リベース	1.2kg
3	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.2kg	—	○		
4	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.5kg	○	—		
5	改質アスファルトルーフィング	—	○	○	ガムクールキャップEX	—
絶縁帯	絶縁帯用ルーフィング				ガムロンMGベースB20	—

※ 既存防水層の劣化が著しい部分は「撤去方式」とし、それ以外は「かぶせ方式」とする。なお、「撤去方式」とする範囲は特記による。

※ 工程2の（ ）内の数値は既存防水層がアスファルト常温工法の場合に適用する。

※ 工程5に溶着型（トーチ工法）、自己接着型（自着工法）を使用する場合は、工程3及び工程4を省略する。

※ 工程5に複合工法を使用する場合は、工程2を省略する。

2. 2. 1表 アスファルト防水常温工法（P型）の工程					（2）一般部	
工程	品名	使用量/㎡	かぶせ方式	撤去方式	材 料	使用量/㎡
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg	—	○		
2	アスファルト活性剤 又はポリマーセメント系下地調整材	1.2kg (1.0kg)	○	—	リベース	1.2kg
3	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.2kg	—	○		
4	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.5kg	○	—		
5	改質アスファルトルーフィング	—	○	○	ガムクールキャップEX	—

3節 屋根外断熱等部分修繕工事

保全工事共通仕様書 2. 3. 2 アスファルト防水常温工法（非断熱部）

屋根外断熱防水工法における非断熱部の防水修繕に適用する。

材料・工法は「仕様登録集」による

2. 3. 4表 非断熱部の工程

工程	品名	使用量/㎡	種別	材 料	使用量/㎡
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg	撤去方式	アスファルトプライマーSS	0.2kg
2	アスファルト活性剤又はポリマーセメント系下地調整材	1.2kg (1.0kg)	かぶせ方式	リベース	1.2kg
3	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.3kg (1.0kg)			—
4	改質アスファルトルーフィング	—		ポリマリットキャップ (ガムクールキャップEX)	—
5	仕上塗料	0.3kg		SPファインカラー (A-101)	0.3kg

※ 既存防水を撤去した箇所は、工程1の速乾性アスファルトプライマーを塗布する。

※ 「かぶせ方式」による場合、工程1は省略し、工程2アスファルト活性剤又はポリマーセメント系下地調整材を用いる。この場合、工程3の使用量は（ ）に示す。なお、既存防水層がアスファルト防水常温工法の場合、工程2の使用量は（ ）に示す。

※ 非断熱部で既存塗膜防水層がある場合は、工程1を層間プライマーとし、品質及び使用量は「仕様登録集」による。

※ 自着工法及びトーチ工法の場合は、工程3を省略する。

※ 工程4.で火気使用が出来ない場合は（ガムクールキャップEX）を用いる。

2. 3. 5表 非断熱部と隣接する断熱部の工程

工程	品名	使用量/㎡	種別	材 料	使用量/㎡
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg	撤去方式		
2	アスファルト活性剤又はポリマーセメント系下地調整材	1.2kg (1.0kg)	かぶせ方式	リベース	1.2kg
3	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.3kg (1.0kg)			—
4	改質アスファルトルーフィング	—		ガムクールキャップEX SPファインカラー (A-101)	— 0.3kg

※ 既存防水層を撤去した箇所は、工程1による

※ 「かぶせ方式」による場合、工程1は省略し、工程2アスファルト活性剤又はポリマーセメント系下地調整材を用いる。この場合、工程3の使用量は（ ）に示す。なお、既存防水層がアスファルト防水常温工法の場合、工程2の使用量は（ ）に示す。

※ 非断熱部で既存塗膜防水層がある場合は、工程1を層間プライマーとし、品質及び使用量は「仕様登録集」による。

※ 自着工法及びトーチ工法の場合は、工程3を省略する。

3節 屋根外断熱等部分修繕工事

保全工事共通仕様書 2. 3. 4 アスファルト成形板工法

屋根外断熱防水工法におけるアスファルト成形板の部分修繕に適用する。

材料・工法は「仕様登録集」による

アスファルト成形板工法 断熱部の工程		
工程	材 料	使用量/㎡
1 2成分タイプウレタン系反応硬化型接着剤	GKボンド	1.0kg
2 A種押出法ポリスチレンフォーム保温板3種b(スキンあり) 25mm	RBボード25mm品	—
3 断熱材及び成型板を張り付ける為の接着用ルーフィング	ダンパーシート	—
4 表面にカラー碎石を接着したアスファルトマスチック系保護用成形板	彩色バリキャップP	—
5 特殊改質アスファルト系防水端末処理	強力ガムシール	—

※在来工法建物の屋根外断熱防水工法アスファルト防水常温工法若しくはPC・HPC工法建物の屋根外断熱防水工法アスファルト防水常温工法の防水層の上へ行う。

4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2. 4. 2外断熱露出アスファルト防水工法（全面修繕1回目）

アスファルト成形板、コンクリートブロック及びアスファルト露出防水等を施した屋根を外断熱露出アスファルト防水工法により全面修繕する工事に適用する。

材料、工法は「機材及び工法の品質判定基準」による。品質性能試験報告書の提出が必要

2. 4. 1表 断熱部（平場）既存防水層の下地処理工程

工程	品名	使用量/㎡	かぶせ方式	撤去方式	材 料	使用量/㎡
1	不陸調整（メテロ外塗り又は改質アスファルトルーフィング増張り）	—	○	○	リグレー等	
	常温工法用アスファルトコンパウンド等（応急処理用）	1.2kg	○	—	クールベース	1.2kg
2	アスファルト活性剤又はポリマーセメント系下地調整材	1.0kg	○	—	リベース	1.0kg
3	速乾性プライマー	0.2kg	—	○	アスファルトプライマーSS	0.2kg
4	増張り用シート	—	—	○	ポリマリット25	—

※ 工程2で常温工法用アスファルトコンパウンド等を塗布した範囲は工程3を省略する。

2. 4. 2表 断熱部（平場）の工程

工程	品名	使用量/㎡	材 料	使用量/㎡
	接着剤	—	レイコーセメント	0.8kg
1	粘着材（部分粘着型シート、粘着層付テープ状シート、粘着層付レベラー材等）	—		—
2	硬質ウレタンフォーム	—	ギルフォーム	—
3	断熱材張り継ぎ部補強用テープ W≧50mm	—	ハイテープM-50	—
4	部分粘着型通気絶縁用シート	—	ポリマリットST	—
5	改質アスファルトルーフィング（露出単層防水用）	—	ポリマリットキャップ	—
6	仕上塗料	0.3kg	SPファインカラー	0.4kg~0.6kg

※ 工程1の接着剤は、部分接着（点張り）又は全面接着により、種別は製造所の仕様による。

※ 工程2の硬質ウレタンフォームの厚さは特記による。

2. 4. 3表 断熱部及び非断熱部（立上り部）の工程

工程	品名	使用量/㎡	材 料	使用量/㎡
1	速乾性プライマー	0.2kg	アスファルトプライマーSS	0.2kg
2	増張り用シート	—	ポリマリット25	—
3	改質アスファルトルーフィング（露出単層防水用）	—	ポリマリットキャップ	—
4	ゴムアスファルト系シール、押え金物	—	強力ガムシール	—
5	仕上塗料	0.3kg	SPファインカラー	0.4kg~0.6kg

2. 4. 4表 非断熱部（平場）の工程

工程	品名	使用量/㎡	かぶせ方式	撤去方式	材 料	使用量/㎡
1	アスファルト活性剤又はポリマーセメント系下地調整材	1.0kg	○	—	リベース	1.0kg
	速乾性プライマー	0.2kg	—	○	アスファルトプライマーSS	0.2kg
2	増張り用シート	—	○	○	ポリマリット25	—
3	部分粘着型通気絶縁用シート（水抜きシートを設置する場合）	—	○	○	ポリマリットST	—
4	改修用ドレイン	—	○	○	リードレンC	—
5	改質アスファルトルーフィング（露出単層防水用）	—	○	○	ポリマリットキャップ	—
6	仕上塗料	0.3kg	○	○	SPファインカラー	0.4kg~0.6kg

※ 工程2は、「かぶせ方式」の場合により、取付け範囲は2. 4. 2の4口①による。

※ 工程3は、水抜きシートを設置する場合に適用する。

※ 工程4は、既存ドレインに取り付ける。なお、水抜きシート等を設置する場合は特記による。

※ 工程5は、外断熱保護防水層に接続する。

4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2. 4. 3 外断熱露出アスファルト防水工法（非断熱部分修繕）

既存外断熱露出アスファルト防水工法の非断熱部を部分修繕する工事に適用する。

下地処理、材料、工法は、2. 2. 2アスファルト防水常温工法（P型）の2、3、4による。

2. 2. 1表 アスファルト防水常温工法（P型）の工程					（1）絶縁帯がある場合	
工程	品名	使用量/㎡	かぶせ方式	撤去方式	材 料	使用量/㎡
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg	—	○		
2	アスファルト活性剤 又はポリマーセメント系下地調整材	1.2kg (1.0kg)	○	—	リベース	1.2kg
3	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.2kg	—	○		
4	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.5kg	○	—		
5	改質アスファルトルーフィング	—	○	○	ガムクールキャップEX	—
絶縁帯	絶縁帯用ルーフィング				ガムロンMGベースB20	—

※ 既存防水層の劣化が著しい部分は「撤去方式」とし、それ以外は「かぶせ方式」とする。なお、「撤去方式」とする範囲は特記による。

※ 工程2の（ ）内の数値は既存防水層がアスファルト常温工法の場合に適用する。

※ 工程5に溶着型（トーチ工法）、自己接着型（自着工法）を使用する場合は、工程3及び工程4を省略する。

※ 工程5に複合工法を使用する場合は、工程2を省略する。

2. 2. 1表 アスファルト防水常温工法（P型）の工程					（2）一般部	
工程	品名	使用量/㎡	かぶせ方式	撤去方式	材 料	使用量/㎡
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg	—	○		
2	アスファルト活性剤 又はポリマーセメント系下地調整材	1.2kg (1.0kg)	○	—	リベース	1.2kg
3	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.2kg	—	○		
4	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.5kg	○	—		
5	改質アスファルトルーフィング	—	○	○	ガムクールキャップEX	—

4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2. 4. 4外断熱露出アスファルト防水工法（断熱部分修繕）

既存外断熱露出アスファルト防水工法の断熱部を部分修繕する工事に適用する。

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」及び2. 4. 2の3による。
 法は2. 4. 6表、2. 4. 7表による。

工

脱気装置は、腐食しにくい材質の強固なもので、ステンレス製を標準とする。形状は、排気口の内径が40mm以上、高さは180mm以上のものとし、製造所の仕様による。

2. 4. 6表 既存防水層（断熱材を含む）撤去部の範囲の工程

工程	品名（規格）	使用量／㎡	材 料	使用量／㎡
	接着剤	—	レイコーセメント	0.8kg
1	粘着材（部分粘着型シート、粘着層付テープ状シート、粘着層付レベラー材等）	—		—
2	硬質ウレタンフォーム	—	ギルフォーム	—
3	断熱材張り継ぎ部補強用テープ W≧50mm	—	ハイテープM-50	—
4	部分粘着型通気絶縁用シート 自己粘着型シート	—	ポリマリットST	—
5	改質アスファルトルーフィング（露出単層防水用）	—	ポリマリットキャップ	—
6	仕上塗料	0.3kg	SPファインカラー	0.4kg～0.6kg

※ 工程1の接着剤は、部分接着（点張り）又は全面接着により、種別は、製造所の仕様による。

※ 工程2の硬質ウレタンフォームの厚さは既存断熱材と同じ厚さとする。

2. 4. 7表 かぶせ部の範囲の工程

一般名称	使用量／㎡	材 料	使用量／㎡
1 アスファルト活性剤 又はポリマーセメント系下地調整材	1.0kg	リベース	1.0kg
2 改質アスファルトルーフィング（露出単層防水用）	—	ポリマリットキャップ	—
3 仕上塗料	0.3kg	SPファインカラー	0.4kg～0.6kg

5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

保全工事共通仕様書 2.5.2 脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系全面修繕1回目）

既存防水層保護コンクリートを施した防水を歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法により全面修繕する工事に適用する。

材料、工法は「機材及び工法の品質判定基準」による。品質性能試験報告書の提出が必要。

2.5.1表 脱気絶縁部（平場部）の工程

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	接着剤	0.2kg以上	—	OTプライマー-A	0.2kg
	プライマー	0.15kg以上	0.5~2時間		
2	通気緩衝シート	—	—	オルタックシートWS	—
3	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.5kg	製造所の仕様による。	オルタックエース	1.8kg
4	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.5kg	製造所の仕様による。	オルタックエース	1.8kg
5	層間プライマー	0.1kg以上	—	速硬化OTプライマー-Mブルー	0.1kg以上
6	無機質系防水保護塗料	1.0kg以上	3~6時間	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 工程1のプライマーは、工程2に自己接着型の通気緩衝シートを使用する場合に用いる。

※ 工程2の通気緩衝シートは、ポリマー改質アスファルトシート又はゴムシートとし、合成繊維不織布を使用する場合は、ウレタン防水材の塗布量を4.5kg以上とし、塗膜防水材の塗布工程を3工程に分けて塗布する。

※ 工程2の通気緩衝シートは、脱気機能を有するものとする。

※ 工程3、4のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/m³である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

2.5.2表 庇、架台天端及び立上り部等の工程

工程	一般名称	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	1~3時間	OTプライマー-A	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.5kg	—	立上り用オルタックエース	0.5kg
3	補強布	1.1m	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	1.0kg	製造所の仕様による。	立上り用オルタックエース	1.4kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	1.0kg	製造所の仕様による。	立上り用オルタックエース	1.4kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	—	速硬化OTプライマー-Mブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料	1.0kg以上	3~6時間	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/m³である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

保全工事共通仕様書 2.5.2 脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系全面修繕1回目）

既存防水層保護コンクリートを施した防水を歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法により全面修繕する工事に適用する。

材料、工法は「機材及び工法の品質判定基準」による。品質性能試験報告書の提出が必要。

2.5.1表 脱気絶縁部（平場部）の工程

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	接着剤	0.2kg以上	—	OTプライマー-A	0.2kg
	プライマー	0.15kg以上	0.5~2時間		
2	通気緩衝シート	—	—	オルタックシートWS	—
3	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.5kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアR	1.8kg
4	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.5kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアR	1.8kg
5	層間プライマー	0.1kg以上	—	速硬化OTプライマー-Mブルー	0.1kg以上
6	無機質系防水保護塗料	1.0kg以上	3~6時間	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 工程1のプライマーは、工程2に自己接着型の通気緩衝シートを使用する場合に用いる。

※ 工程2の通気緩衝シートは、ポリマー改質アスファルトシート又はゴムシートとし、合成繊維不織布を使用する場合は、ウレタン防水材の塗布量を4.5kg以上とし、塗膜防水材の塗布工程を3工程に分けて塗布する。

※ 工程2の通気緩衝シートは、脱気機能を有するものとする。

※ 工程3、4のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/m³である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

2.5.2表 庇、架台天端及び立上り部等の工程

工程	一般名称	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	1~3時間	OTプライマー-A	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.5kg	—	オルタックサンキュアT	0.5kg
3	補強布	1.1m	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	1.0kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアT	1.4kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	1.0kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアT	1.4kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	—	速硬化OTプライマー-Mブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料	1.0kg以上	3~6時間	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/m³である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

保全工事共通仕様書 2.5.2 脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系全面修繕1回目）

既存防水層保護コンクリートを施した防水を歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法により全面修繕する工事に適用する。

材料、工法は「機材及び工法の品質判定基準」による。品質性能試験報告書の提出が必要。

2.5.1表 脱気絶縁部（平場部）の工程

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	接着剤	0.2kg以上	—	OTプライマー-A	0.2kg
	プライマー	0.15kg以上	0.5~2時間		
2	通気緩衝シート	—	—	オルタックシートWS	—
3	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.5kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュア50・500	2.0kg
4	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.5kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュア50・500	1.9kg
5	層間プライマー	0.1kg以上	—	速硬化OTプライマー-Mブルー	0.1kg以上
6	無機質系防水保護塗料	1.0kg以上	3~6時間	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 工程1のプライマーは、工程2に自己接着型の通気緩衝シートを使用する場合に用いる。

※ 工程2の通気緩衝シートは、ポリマー改質アスファルトシート又はゴムシートとし、合成繊維不織布を使用する場合は、ウレタン防水材の塗布量を4.5kg以上とし、塗膜防水材の塗布工程を3工程に分けて塗布する。

※ 工程2の通気緩衝シートは、脱気機能を有するものとする。

※ 工程3、4のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/m³である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

2.5.2表 庇、架台天端及び立上り部等の工程

工程	一般名称	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	1~3時間	OTプライマー-A	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り部）	0.5kg	—	オルタックサンキュアT	0.5kg
3	補強布	1.1m	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り部）	1.0kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアT	1.4kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り部）	1.0kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアT	1.4kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	—	速硬化OTプライマー-Mブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料	1.0kg以上	3~6時間	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/m³である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

保全工事共通仕様書 2. 5. 3 脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系全面修繕2回目）

既存歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法を全面修繕する工事に適用する。

既存防水層の劣化が著しく、当該工法に支障がある場合には既存防水層を撤去のうえ、2. 5. 2を適用する。

材料は、2. 5. 2による。 工法は2. 5. 3表及び2. 5. 4表による。

2. 5. 3表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程（平場）

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	1～3時間	OTプライマーA	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材	0.3kg	製造所の仕様による。	オルタックエース	0.4kg
3	補強布	1.1m	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.5kg	製造所の仕様による。	オルタックエース	1.8kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.2kg	製造所の仕様による。	オルタックエース	1.4kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	—	速硬化OTプライマー-Mブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料	1.0kg以上	3～6時間	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 工程2, 4, 5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/㎡である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。

2. 5. 4表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程（庇・架台天端及び立上り部等）

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	1～3時間	OTプライマーA	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.3kg	製造所の仕様による。	立上り用オルタックエース	0.4kg
3	補強布	1.1m	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.9kg	製造所の仕様による。	立上り用オルタックエース	1.2kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.8kg	製造所の仕様による。	立上り用オルタックエース	1.0kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	—	速硬化OTプライマー-Mブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料	1.0kg以上	3～6時間	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 工程2, 4, 5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/㎡である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。

5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

保全工事共通仕様書 2. 5. 3 脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系全面修繕2回目）

既存歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法を全面修繕する工事に適用する。

既存防水層の劣化が著しく、当該工法に支障がある場合には既存防水層を撤去のうえ、2. 5. 2を適用する。

材料は、2. 5. 2による。 工法は2. 5. 3表及び2. 5. 4表による。

2. 5. 3表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程（平場）

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	1～3時間	OTプライマーA	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材	0.3kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアR	0.4kg
3	補強布	1.1m	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.5kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアR	1.8kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.2kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアR	1.4kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	—	速硬化OTプライマー-Mブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料	1.0kg以上	3～6時間	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 工程2, 4, 5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/㎡である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。

2. 5. 4表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程（庇・架台天端及び立上り部等）

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	1～3時間	OTプライマーA	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.3kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアT	0.4kg
3	補強布	1.1m	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.9kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアT	1.2kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.8kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアT	1.0kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	—	速硬化OTプライマー-Mブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料	1.0kg以上	3～6時間	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 工程2, 4, 5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/㎡である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。

5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

保全工事共通仕様書 2. 5. 3 脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系全面修繕2回目）

既存歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法を全面修繕する工事に適用する。

既存防水層の劣化が著しく、当該工法に支障がある場合には既存防水層を撤去のうえ、2. 5. 2を適用する。

材料は、2. 5. 2による。 工法は2. 5. 3表及び2. 5. 4表による。

2. 5. 3表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程（平場）

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	1～3時間	OTプライマーA	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材	0.3kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュア50・500	0.4kg
3	補強布	1.1m	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.5kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュア50・500	1.8kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.2kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュア50・500	1.7kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	—	速硬化OTプライマー-Mブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料	1.0kg以上	3～6時間	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 工程2, 4, 5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/㎡である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。

2. 5. 4表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程（庇・架台天端及び立上り部等）

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	1～3時間	OTプライマーA	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.3kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアT	0.4kg
3	補強布	1.1m	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.9kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアT	1.2kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.8kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアT	1.0kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	—	速硬化OTプライマー-Mブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料	1.0kg以上	3～6時間	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 工程2, 4, 5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/㎡である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。

5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

保全工事共通仕様書 2.5.4 脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系部分修繕）

既存歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法を部分修繕する工事に適用する。

既存防水層の劣化が著しく、広範囲に及ぶ場合には当該部分を撤去し、2.5.2（脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタン系全面修繕1回目））を適用する。なお、当該部分と既存絶縁シートの継目部分はテープ処理を行い、継目部分の通気に支障がないように施工する。

脱気装置の有無は特記による。

材料、工法、施工は2.5.3による。

2.5.3表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程（平場）

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	1～3時間	OTプライマーA	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材	0.3kg	製造所の仕様による。	オルタックエース	0.4kg
3	補強布	1.1m	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.5kg	製造所の仕様による。	オルタックエース	1.8kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.2kg	製造所の仕様による。	オルタックエース	1.4kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	—	速硬化OTプライマーMブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料	1.0kg以上	3～6時間	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/㎡である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。

2.5.4表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程（庇・架台天端及び立上り部等）

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	1～3時間	OTプライマーA	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.3kg	製造所の仕様による。	立上り用オルタックエース	0.4kg
3	補強布	1.1m	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.9kg	製造所の仕様による。	立上り用オルタックエース	1.2kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.8kg	製造所の仕様による。	立上り用オルタックエース	1.0kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	—	速硬化OTプライマーMブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料	1.0kg以上	3～6時間	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/㎡である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。

5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

保全工事共通仕様書 2.5.4 脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系部分修繕）

既存歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法を部分修繕する工事に適用する。

既存防水層の劣化が著しく、広範囲に及ぶ場合には当該部分を撤去し、2.5.2（脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタン系全面修繕1回目））を適用する。なお、当該部分と既存絶縁シートの継目部分はテープ処理を行い、継目部分の通気に支障がないように施工する。

脱気装置の有無は特記による。

材料、工法、施工は2.5.3による。

2.5.3表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程（平場）

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	1～3時間	OTプライマーA	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材	0.3kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアR	0.4kg
3	補強布	1.1m	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.5kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアR	1.8kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.2kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアR	1.4kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	—	速硬化OTプライマーMブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料	1.0kg以上	3～6時間	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/㎡である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。

2.5.4表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程（庇・架台天端及び立上り部等）

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	1～3時間	OTプライマーA	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.3kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアT	0.4kg
3	補強布	1.1m	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.9kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアT	1.2kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.8kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアT	1.0kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	—	速硬化OTプライマーMブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料	1.0kg以上	3～6時間	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/㎡である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。

5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

保全工事共通仕様書 2.5.4 脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系部分修繕）

既存歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法を部分修繕する工事に適用する。

既存防水層の劣化が著しく、広範囲に及ぶ場合には当該部分を撤去し、2.5.2（脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタン系全面修繕1回目））を適用する。なお、当該部分と既存絶縁シートの継目部分はテープ処理を行い、継目部分の通気に支障がないように施工する。

脱気装置の有無は特記による。

材料、工法、施工は2.5.3による。

2.5.3表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程（平場）

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	1～3時間	OTプライマーA	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材	0.3kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュア50・500	0.4kg
3	補強布	1.1m	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.5kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュア50・500	1.8kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.2kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュア50・500	1.7kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	—	速硬化OTプライマーMブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料	1.0kg以上	3～6時間	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/㎡である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。

2.5.4表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程（庇・架台天端及び立上り部等）

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	1～3時間	OTプライマーA	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.3kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアT	0.4kg
3	補強布	1.1m	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.9kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアT	1.2kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）	0.8kg	製造所の仕様による。	オルタックサンキュアT	1.0kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	—	速硬化OTプライマーMブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料	1.0kg以上	3～6時間	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/㎡である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。

6節 脱気絶縁複合防水工事（非歩行用）

保全工事共通仕様書 2. 6. 2 脱気絶縁複合防水（非歩行用改質アスファルト全面修繕1回目）

非開放の建物の屋上で防水層保護コンクリートを施した防水の修繕に適用する。

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」による。品質性能試験報告書の提出が必要。

脱気絶縁部は、通気絶縁用シートに部分粘着型通気絶縁用シートを用いる「部分粘着型通気絶縁用シート工法」とする。性能は、「機材及び工法の品質判定基準」に適合するもので、取付方法はトーチ工法又は自着工法のいずれかによる。

2. 6. 1表 脱気絶縁部（平場）の工程

工程	品名	使用量/㎡	材 料	使用量/㎡
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg	アスファルトプライマーSS	0.2kg
2	通気絶縁用シート	—	ポリマリットST	—
3	改質アスファルト（砂付）ルーフィング	—	ポリマリットキャップ	—
4	仕上塗料	0.3kg	SPファインカラー	0.4kg~0.6kg

※ 工程2は、脱気装置の取付けを含む。

※ 目地補強シートを用いる場合は、特記による。

2. 6. 2表 密着部（平場及び立上り等）の工程

工程	品名	使用量/㎡	材 料	使用量/㎡
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg	アスファルトプライマーSS	0.2kg
2	目地補強用シート	—	ポリマリットGLテープ	—
3	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.3kg		—
4	改質アスファルト（砂付）ルーフィング	—	ポリマリットキャップ	—
5	仕上塗料	0.3kg	SPファインカラー	0.4kg~0.6kg

※ トーチ工法又は自着工法による場合は、工程3は省略する。

7節 バルコニー等床防水工事

保全工事共通仕様書 2. 7. 2ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕1回目）

バルコニー床及び共用廊下排水溝（以下「バルコニー等床」という。）の防水修繕工事に適用する。

材料、工法は「機材及び工法の品質判定基準」による。品質性能試験報告書の提出が必要。

塗り厚は、2.0mmを標準とする。

2. 7. 1表 ウレタンゴム系塗膜防水工法の工程

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.15~0.25kg	1~6時間	OTプライマーA	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材（注）1	2.0kg	8~16時間	オルタックエースVR	2.8kg
3	仕上塗料（1回目）（注）2	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg
4	仕上塗料（2回目）（注）2	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg

※ 1工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0g/㎡である材料の場合をしめしており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ 2工程3及び工程4の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

保全工事共通仕様書 2. 7. 3 ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕2回目）

バルコニー等床の2回目以降の修繕工事に適用する。

材料は、2. 7. 2の4による。

工法は「機材及び工法の品質判定基準」及び2. 7. 2の5イからロによる。

塗り厚は、1.5mmを標準とする。

2. 7. 2表 ウレタンゴム系塗膜防水工法修繕2回目以降（バルコニー等床）の工程

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.1~0.2kg	1~6時間	速硬化OTプライマーMフルー	0.1kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.5kg	8~16時間	オルタックエースVR	2.1kg
3	仕上塗料（1回目）	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg
4	仕上塗料（2回目）	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg

※ 1工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0g/㎡である材料の場合をしめしており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ 2工程3及び工程4の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

保全工事共通仕様書 2. 7. 4 ウレタンゴム系塗膜防水工法（部分修繕）

バルコニー等床防水の塗り残し部の修繕工事に適用する。

既存防水層の材料がウレタン系であることを確認の上、原則として、同一系材料を使用するものとし、品質等は2. 7. 2の4による。

工程は、2. 7. 1表による。

既存防水層塗り残し部分を既存防水層とほぼ同じレベルになるように施工する。

塗膜の流動性が無くなったことを確認の上、既存防水層に重なるよう施工する。また、塗り重ね幅は50mmを標準とする。

2. 7. 1表 ウレタンゴム系塗膜防水工法修繕（バルコニー等床）の工程

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.15~0.25kg	1~6時間	速硬化OTプライマーMフルー	0.15~0.25kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材	2.0kg	8~16時間	オルタックエースVR	2.8kg
3	仕上塗料（1回目）	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg
4	仕上塗料（2回目）	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg

※ 1工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0g/㎡である材料の場合をしめしており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ 2工程3及び工程4の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

7節 バルコニー等床防水工事

保全工事共通仕様書 2. 7. 2ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕1回目）

バルコニー床及び共用廊下排水溝（以下「バルコニー等床」という。）の防水修繕工事に適用する。

材料、工法は「機材及び工法の品質判定基準」による。品質性能試験報告書の提出が必要。

塗り厚は、2.0mmを標準とする。

2. 7. 1表 ウレタンゴム系塗膜防水工法の工程

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.15~0.25kg	1~6時間	OTプライマーA	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材（注）1	2.0kg	8~16時間	オルタックサンキュアR	2.4kg
3	仕上塗料（1回目）（注）2	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg
4	仕上塗料（2回目）（注）2	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg

※ 1工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/m³である材料の場合をしめしており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ 2工程3及び工程4の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

保全工事共通仕様書 2. 7. 3 ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕2回目）

バルコニー等床の2回目以降の修繕工事に適用する。

材料は、2. 7. 2の4による。

工法は「機材及び工法の品質判定基準」及び2. 7. 2の5イからロによる。

塗り厚は、1.5mmを標準とする。

2. 7. 2表 ウレタンゴム系塗膜防水工法修繕2回目以降（バルコニー等床）の工程

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.1~0.2kg	1~6時間	速硬化OTプライマーMフルー	0.1kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.5kg	8~16時間	オルタックサンキュアR	1.8kg
3	仕上塗料（1回目）	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg
4	仕上塗料（2回目）	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg

※ 1工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/m³である材料の場合をしめしており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ 2工程3及び工程4の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

保全工事共通仕様書 2. 7. 4 ウレタンゴム系塗膜防水工法（部分修繕）

バルコニー等床防水の塗り残し部の修繕工事に適用する。

既存防水層の材料がウレタン系であることを確認の上、原則として、同一系材料を使用するものとし、品質等は2. 7. 2の4による。

工程は、2. 7. 1表による。

既存防水層塗り残し部分を既存防水層とほぼ同じレベルになるように施工する。

塗膜の流動性が無くなったことを確認の上、既存防水層に重なるよう施工する。また、塗り重ね幅は50mmを標準とする。

2. 7. 1表 ウレタンゴム系塗膜防水工法修繕（バルコニー等床）の工程

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.15~0.25kg	1~6時間	速硬化OTプライマーMフルー	0.15~0.25kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材	2.0kg	8~16時間	オルタックサンキュアR	2.4kg
3	仕上塗料（1回目）	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg
4	仕上塗料（2回目）	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg

※ 1工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/m³である材料の場合をしめしており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ 2工程3及び工程4の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

7節 バルコニー等床防水工事

保全工事共通仕様書 2. 7. 2ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕1回目）

バルコニー床及び共用廊下排水溝（以下「バルコニー等床」という。）の防水修繕工事に適用する。

材料、工法は「機材及び工法の品質判定基準」による。品質性能試験報告書の提出が必要。

塗り厚は、2.0mmを標準とする。

2. 7. 1表 ウレタンゴム系塗膜防水工法の工程

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.15~0.25kg	1~6時間	OTプライマーA	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材（注）1	2.0kg	8~16時間	オルタックサンキュア50・500	2.6kg
3	仕上塗料（1回目）（注）2	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg
4	仕上塗料（2回目）（注）2	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg

※ 1工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0g/㎡である材料の場合をしめしており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ 2工程3及び工程4の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

保全工事共通仕様書 2. 7. 3 ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕2回目）

バルコニー等床の2回目以降の修繕工事に適用する。

材料は、2. 7. 2の4による。

工法は「機材及び工法の品質判定基準」及び2. 7. 2の5イからロによる。

塗り厚は、1.5mmを標準とする。

2. 7. 2表 ウレタンゴム系塗膜防水工法修繕2回目以降（バルコニー等床）の工程

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.1~0.2kg	1~6時間	速硬化OTプライマーMブルー	0.1kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.5kg	8~16時間	オルタックサンキュア50・500	2.0kg
3	仕上塗料（1回目）	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg
4	仕上塗料（2回目）	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg

※ 1工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0g/㎡である材料の場合をしめしており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ 2工程3及び工程4の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

保全工事共通仕様書 2. 7. 4 ウレタンゴム系塗膜防水工法（部分修繕）

バルコニー等床防水の塗り残し部の修繕工事に適用する。

既存防水層の材料がウレタン系であることを確認の上、原則として、同一系材料を使用するものとし、品質等は2. 7. 2の4による。

工程は、2. 7. 1表による。

既存防水層塗り残し部分を既存防水層とほぼ同じレベルになるように施工する。

塗膜の流動性が無くなったことを確認の上、既存防水層に重なるよう施工する。また、塗り重ね幅は50mmを標準とする。

2. 7. 1表 ウレタンゴム系塗膜防水工法修繕（バルコニー等床）の工程

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.15~0.25kg	1~6時間	速硬化OTプライマーMブルー	0.15~0.25kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材	2.0kg	8~16時間	オルタックサンキュア50・500	2.6kg
3	仕上塗料（1回目）	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg
4	仕上塗料（2回目）	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg

※ 1工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0g/㎡である材料の場合をしめしており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ 2工程3及び工程4の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

8節 屋上架台・庇等防水工事

保全工事共通仕様書 2. 8. 2 ウレタンゴム系塗膜防水工法

屋上の架台天端、庇等の修繕工事に適用する。

材料は、2. 7. 2の4による。

塗膜防水工法の工程は、2. 7. 1表による。

2. 7. 1 ウレタンゴム系塗膜防水工法修繕（バルコニー等床）の工程

工程	品名	使用量/m ²	養生時間	材 料	使用量/m ²
1	プライマー	0.15~0.25kg	1~6時間	OTプライマー-A	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材	2.0kg	8~16時間	オルタックエースVR	2.8kg
3	仕上塗料（1回目）	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg
4	仕上塗料（2回目）	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg

2. 7. 1 ウレタンゴム系塗膜防水工法修繕（バルコニー等床）の工程

工程	品名	使用量/m ²	養生時間	材 料	使用量/m ²
1	プライマー	0.15~0.25kg	1~6時間	OTプライマー-A	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材（注）1	2.0kg	8~16時間	オルタックサンキュアR	2.4kg
3	仕上塗料（1回目）（注）2	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg
4	仕上塗料（2回目）（注）2	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg

2. 7. 1 ウレタンゴム系塗膜防水工法修繕（バルコニー等床）の工程

工程	品名	使用量/m ²	養生時間	材 料	使用量/m ²
1	プライマー	0.15~0.25kg	1~6時間	OTプライマー-A	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材（注）1	2.0kg	8~16時間	オルタックサンキュア50・500	2.6kg
3	仕上塗料（1回目）（注）2	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg
4	仕上塗料（2回目）（注）2	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg

9節 トレンチピット等防水工事

保全工事共通仕様書 2. 9. 2 ウレタンゴム系塗膜防水工法

トレンチピット等の修繕工事に適用する。

材料は、2. 7. 2の4による。

2. 7. 1表による。

トレンチピット等の閉塞箇所へ施工する場合は、換気を十分に行う等、作業環境に留意する。

2. 7. 1 ウレタンゴム系塗膜防水工法修繕（バルコニー等床）の工程

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.15~0.25kg	1~6時間	OTプライマーA	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材	2.0kg	8~16時間	オルタックエースVR	2.8kg
3	仕上塗料（1回目）	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg
4	仕上塗料（2回目）	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg

2. 7. 1 ウレタンゴム系塗膜防水工法修繕（バルコニー等床）の工程

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.15~0.25kg	1~6時間	OTプライマーA	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材（注）1	2.0kg	8~16時間	オルタックサンキュアR	2.4kg
3	仕上塗料（1回目）（注）2	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg
4	仕上塗料（2回目）（注）2	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg

2. 7. 1 ウレタンゴム系塗膜防水工法修繕（バルコニー等床）の工程

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	プライマー	0.15~0.25kg	1~6時間	OTプライマーA	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材（注）1	2.0kg	8~16時間	オルタックサンキュア50・500	2.6kg
3	仕上塗料（1回目）（注）2	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg
4	仕上塗料（2回目）（注）2	0.1kg	1~7時間	OTコートA	0.1kg

10節 階段室床防水工事

保全工事共通仕様書 2.10.2 超速硬化ウレタン吹付工法（全面修繕1回目）

階段室床の防水工事に適用する。

材料、工法は「機材及び工法の品質判定基準」による。品質性能試験報告書の提出が必要。

2.10.1表 超速硬化ウレタン吹付け工法の工程

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	1液性湿気硬化型のウレタンゴム系プライマー又はエポキシ系プライマー	0.15kg以上	0.5~1時間程度	OTプライマーQQ	0.2kg
2	超速硬化ウレタン吹付け材	1.5kg	—	オルタックスプレーFF	1.5kg
3	仕上塗料	0.15kg	0.5~1時間程度	OTコートQQ	0.2kg

保全工事共通仕様書 2.10.3 超速硬化ウレタン吹付工法（全面修繕2回目以降）（仕上塗料塗替

階段室床に超速硬化ウレタン吹付工法による防水が施された階段の全面修繕工事に適用する。

当該修繕に使用する防水工法は、仕上塗料塗替え工法とする。なお、既存防水層の劣化が著しく、当該工法が適さない部分は撤去し、2.10.4 超速硬化ウレタン吹付工法（部分修繕）を適用する。

材料は2.10.2の1（1）による他、使用するプライマーは既存防水層と付着性の良いものとする。

2.10.2表 仕上塗料塗り替え工法の工程

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	1液性湿気硬化型のウレタンゴム系プライマー又はエポキシ系プライマー	0.1~0.15kg	1~2時間程度	OTプライマーM	0.1kg
2	仕上塗料	0.15kg	0.5~1時間	OTコートQQ	0.2kg

保全工事共通仕様書 2.10.4 超速硬化ウレタン吹付工法（部分修繕）

階段室床に超速硬化ウレタン吹付工法による防水が施された階段の部分修繕工事に適用する。

当該修繕に使用する防水工法は、ウレタンゴム系塗膜防水手塗り工法とする。

材料は施工性、乾燥性の早い製品による他、製造所の仕様による。

2.10.3表 ウレタンゴム系塗膜防水手塗り工法の工程

工程	品名	使用量/㎡	養生時間	材 料	使用量/㎡
1	1液性湿気硬化型のウレタンゴム系プライマー又はエポキシ系プライマー	0.1~0.15kg	1~2時間程度	速硬化OTプライマーMブルー	0.1kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.5kg	5時間程度	オルタックスサンキュアR	1.8kg
3	チップ材（粒径0.2mm程度）散布	10g		Uチップ	10g
4	仕上塗料	0.15kg	0.5~1時間	OTコートQQ	0.2kg

工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物密度が1.0Mg/㎡である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

1 1 節 勾配屋根改修工事

保全工事共通仕様書 2. 1 1. 2 既存シングル改修工法（改質アスファルトシート防水）

既存シングル屋根の修繕に際して、劣化が激しく飛散の恐れがある場合に改質アスファルトシート防水を行う場合に適用する。

既存屋根の調査及び試験は2. 1 1. 2 既存シングル改修工法（改質アスファルトシート防水）の2（1）及び（2）のイ、ロ、ハによる。

材料、工法は「機材及び工法の品質判定基準」による。品質性能試験報告書の提出が必要。

工法の種別は2. 1 1. 2 既存シングル改修工法（改質アスファルトシート防水）5工法による。

2. 1 1. 2表 改質アスファルトシート防水（一般部）の工程

工程	品名	使用量/㎡	材 料	使用量/㎡
1	アスファルト活性剤又は ポリマーセメント系下地調整材	1.2kg (0.8kg)	リベースSL	1.2kg
2	接着剤 粘着材（部分粘着型シート、粘着層付 テープ状シート、粘着層付レベラー材等）		レイコーセメント	1.2kg
3	硬質ウレタンフォーム		ギルフォーム	—
4	自己粘着型シート		ガムクールFX	—
5	改質アスファルトシート		ガムクールキャップEX	—
6	仕上塗料	0.3kg	SPファインカラー	0.4kg~0.6kg

※ 工程1の使用量（ ）内は、「撤去方式」の場合に適用する。

工程2及び3は、断熱材を取り付ける場合に適用する。

工程3の硬質ウレタンフォームの厚さは特記による。

2. 1 1. 3表 改質アスファルトシート防水（外周部）の工程

工程	品名	使用量/㎡	材 料	(kg/㎡)
1	アルミ製水切金物		アスファルトプライマーSS フラッシングテープ アスファルトワッパ（エッジ）T25~ T50	0.2kg
2	接着剤 粘着材（部分粘着型シート、粘着層付 テープ状シート、粘着層付レベラー材等）		レイコーセメント	1.2kg
3	硬質ウレタンフォーム		ギルフォーム	—
4	自己粘着型シート		ガムクールFX	—
5	改質アスファルトシート		ガムクールキャップEX	—
6	仕上塗料	0.3kg	SPファインカラー	0.4kg~0.6kg

※ 工程2及び3は、断熱材を取り付ける場合に適用する。

※ 工程3の硬質ウレタンフォームの厚さは特記による。

使用材料一覧

リベース

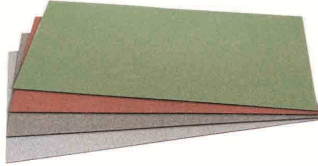
既存防水層を活性化させるアスファルト系下地活性化剤。



20kg/缶

バリキャップ

砂粒を隙間なく密着させた板状成型品の保護仕上げ材。



6mm厚 0.5m×1m

RBボード/スタイロフォームRB-GK-II

押出タイプのノンフロン硬質ポリスチレンフォーム断熱材。



厚さ：25/30/35/40/50/60mm
910mm×910mm

アスファルトプライマーSS

アスファルトを揮発性溶剤で溶解した速乾性の下地処理剤。



16kg/缶

SPファインカラー

アクリル樹脂を主成分とする日射反射率70%以上のエマルジョン系高反射保護塗料。



18kg/缶

ダンパーシート

両面に自着層を設けた防湿用ルーフィング。ギルフォームの下に貼り付けることで防湿機能をプラス。



0.8mm厚(自着層含む) 1m×32m

ポリマリットキャップ

表面に天然スレート砂を圧着した露出防水用キャップシート。



4.0mm厚 1m×8m

ポリマリット25

2層工法に用いる下貼り及び立上り部用シート。



2.5mm厚 1m×8m

ガムクールキャップEX

単層工法に用いる露出防水用キャップシート。



3.5mm厚 1m×8m

強力ガムシール

アスファルト防水層の貼仕舞、端末部に使用するゴムアスファルト系シール材。



330ccカートリッジ:20本/箱
20kg/缶 9kg/缶

ガムロンMGベースB20

絶縁帯用にカットされた両面粘着の改質アスファルトテープ。



200mm×12m

リグレー

下地補修用SBR系ポリマーセメントモルタル。



リグレー(混和材):18kg/缶
リグレーパウダー 薄塗り用、厚塗り用:各20kg/袋

使用材料一覧

クールベース

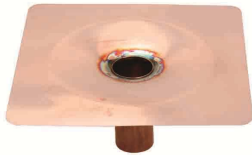
不陸調整や穴埋めに使用する、水性ゴムアスファルト系下地調整材。



クールベース:8kg/缶
クールベースパウダー:16kg/袋

リードレンCたて

改修工事に用銅製ドレン。既存下地からの水分の排出を容易にし、新規防水層との接続を確実にします。



1個/箱

オルタックエース

鉛非含有による高耐久化と特化則・有機則非該当の環境性能を両立した屋上用ウレタン防水材。



32kgセット(主剤:16kg・硬化剤16kg)

メッシュUB

ガラス繊維を用いた密着工法用の補強布。



1,040mm×100m

ハイテープM-50

片面粘着の改質アスファルトテープ。断熱材ジョイント部の補強に使用。



50mm×20m 24巻/箱

OTプライマー-A

コンクリート、モルタル下地用1液型ウレタン系プライマー。



16kg/缶

立上り用オルタックエース

鉛非含有による高耐久化と特化則・有機則非該当の環境性能を両立した屋上立上り用ウレタン防水材。



24kgセット(主剤:8kg・硬化剤16kg)

速硬化OTプライマー-Mブルー

塗布した部分が識別しやすいよう青色に着色した速乾性の既存ウレタン防水用プライマー。



8kg/缶

ポリマリットST

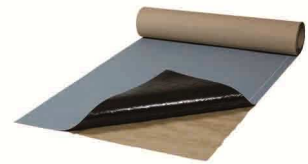
表面にフィルム加工を施し、裏面には粘着用ゴムアスをストライプ状に配した絶縁通気用改質アスファルトシート。



2.3mm厚 1m×8m

オルタックシートWS

裏面はゴムアスによるストライプ状粘着層。表面はウレタン防水と接着性に優れたフィルム層を配した通気緩衝シート。



1.3mm厚 1m×10m

SPミネラコート

歩行仕上げ用の珪砂入り水性保護塗料。



18kg/缶

オルタックエースVR

鉛非含有による高耐久化と特化則・有機則非該当の環境性能を両立したベランダ、庇用ウレタン防水材。



24kgセット(主剤:8kg・硬化剤16kg)

使用材料一覧

オルタックサンキュア500・50

オルタックサプライシステム (OSS) 用の新触媒により可使時間を延ばした速硬化ウレタン防水材料。



500 450kgセット(主剤:172kg・硬化剤278kg)
50 31kgセット(主剤:12kg・硬化剤19kg)

オルタックサンキュアR

新触媒により可使時間を延ばした速硬化ウレタン防水材料。



32kgセット(主剤:16kg・硬化剤16kg)

オルタックサンキュアT

新触媒により可使時間を延ばした立上り用速硬化ウレタン防水材料。



24kgセット(主剤:8kg・硬化剤16kg)

オルタックスプレーFF

高強度型スプレー工法用ウレタン防水材料。



FF 390kgセット(主剤:200kg・硬化剤:182kg・トナー:8kg)
FF-S 35.12kgセット(主剤:18kg・硬化剤:16.4kg・トナー:0.72kg)

OTコートQQ

スプレー工法用の速乾性アクリルウレタン系保護塗料。



15kgセット(主剤:6kg・硬化剤9kg)

OTプライマーQQ

コンクリート、モルタル下地用の速乾性ウレタン系プライマー。



16kg/缶

ギルフォームS/W

ノンフロントタイプの外断熱用硬質ウレタンフォーム。SとWの2サイズがあります。



厚さ: 25/30/35/40/50/60mm
S:605mm×910mm W:900mm×1,200mm

ガムクールFX

裏面が全面粘着タイプの中貼りシート。



1.5mm厚 1m×16m

リベースSL

既存防水層を活性化させる勾配屋根用アスファルト系下地活性化剤。



20kg/缶

レイコーセメント

改質アスファルトをペースト状に仕上げたギルフォーム用接着剤。



18kg/缶